（別添）

イソチアニル
農薬使用者安全評価書

２０２５年３月６日

農業資材審議会農薬分科会

農薬使用者安全評価部会

目　次

＜農薬使用者安全評価部会委員名簿＞.....2
I. 評価対象農薬の概要.....3
1. 有効成分の概要.....3
2. 有効成分の物理的・化学的性状.....4
3. 申請に係る情報.....5
4. 作用機作.....5
5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法.....5
II. 安全性に係る試験の概要.....8
1. 動物代謝.....8
2. 毒性試験の結果概要.....11
3. 公表文献における研究結果.....17
III. 農薬使用者暴露許容量（AOEL）.....19
IV. 急性農薬使用者暴露許容量（AAOEL）.....21
V. 暴露量の推計.....22
1. 経皮吸収試験.....22
2. 圃場における農薬使用者暴露.....22
3. 暴露量の推計.....22
VI. リスク評価結果.....22
評価資料.....23
別紙１　代謝物記号.....26
別紙２　用語及び略語.....28
別紙３　ラットにおけるイソチアニルの推定代謝経路.....29

＜経緯＞

令和４年（2022年）12月４日	農業資材審議会への諮問（再評価）
令和６年（2024年）４月25日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会（第14回）
令和６年（2024年）10月24日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会（第17回）
令和６年（2024年）11月26日から12月25日	国民からの意見・情報の募集
令和７年（2025年）３月６日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会（第19回）

＜農薬使用者安全評価部会委員名簿＞（第 14 回）（第 17 回）（第 19 回）

（委員）

櫻井　裕之

美谷島　克宏

（臨時委員）

上島　通浩

（専門委員）

相﨑　健一

石井　雄二

小坂　忠司

成田　伊都美

イソチアニル

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

1.1 申請者 住友化学株式会社

1.2 登録名 イソチアニル

3,4-ｼﾞｸﾛﾛ-2’-ｼｱﾉ-1,2-ﾁｱｿﾞｰﾙ-5-ｶﾙﾎﾞｷｻﾆﾘﾄﾞ

1.3 一般名 isotianil（ISO名）

1.4 化学名

IUPAC 名： 3,4-dichloro-2’-cyano-1,2-thiazole-5-carboxanilide

CAS 名 ： 3,4-dichloro-*N*-(2-cyanophenyl) -5-isothiazolecarboxamide

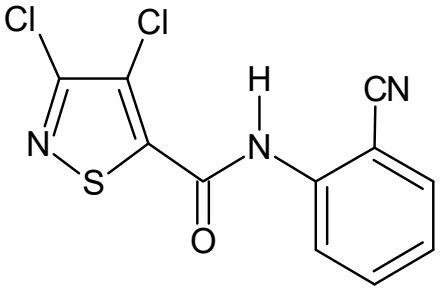
（CAS No. 224049-04-1）

1.5 コード番号 BYF01047，S-2310

1.6 分子式、構造式、分子量

分子式 $C_{11}H_5Cl_2N_3OS$

構造式



分子量 298.15

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目			純度 (%)	試験方法	試験結果
色調・形状			98.8	目視	白色・固体(粉末)
臭気			98.8	官能法	わずかな芳香臭
融点			98.8	OECD 102	193.7~195.1˚C
沸点			98.8	OECD 103	測定不能(372℃付近で分解)
密度			98.8	OECD109	1.11 g/cm^3(20℃)
蒸気圧			99.5	OECD 104	＜8.7 × 10^{-9} Pa (35℃)
熱安定性			98.8	OECD 113	282℃まで安定
溶解度	水		99.5	OECD 105	0.50 mg/L (20ºC)
	有機溶媒	ヘキサン	98.8	OECD 105	0.0594 g/L (20℃)
		トルエン			6.87 g/L (20℃)
		ジクロロメタン			16.6 g/L (20℃)
		アセトン			4.96 g/L (20℃)
		メタノール			0.775 g/L (20℃)
		酢酸エチル			3.62 g/L (20℃)
解離定数 (pK_a)			99.5	OECD 112	8.92 (20ºC)
1-オクタノール／水分配係数 (log P_{ow})			99.5	OECD 107	2.96(25℃、pH 7.2)
加水分解性			>99	OECD 111	半減期 60.8~71.4 日(25℃、pH 7)
水中光分解性			>99	12農産第8147号	半減期2.2日 (pH6.5滅菌蒸留水、25℃、27.95 W/m^2、300~400 nm)
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル			98.8		

極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol^{-1} cm^{-1})
中性(メタノール)		
279	0.684	10200
酸性(pH0.8)		
279	0.668	9950
アルカリ性(pH13.3)		
266	0.701	10500

3. 申請に係る情報

令和４年（2022 年）３月に、再評価を受けるべき者から提出された農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）第８条第３項に基づく試験成績等を受理した。

中国、韓国、豪州等で登録されている。

4. 作用機作

イソチアゾール環を持つ殺菌剤である。病原菌に対する直接的な作用はなく、植物病害抵抗性関連酵素の作用を亢進させる。(FRAC 分類：P3※)

※参照：https://www.frac.info/

5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（51 製剤、別添１参照）

・スタウトダントツ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・スタウトダントツ箱粒剤０８及びツインターボ箱粒剤０８
（クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・ルーチン粒剤及びクミアイルーチン粒剤
（イソチアニル 3.0%粒剤）
・ルーチンアドマイヤー箱粒剤及びクミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・ルーチンアドスピノ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤
・ルーチンアドスピノＧＴ箱粒剤及びシャリオ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・
チフルザミド 3.0%粒剤）
・ルーチンバリアード箱粒剤
（チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・ツインターボフェルテラ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・ルーチントレス箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・箱いり娘粒剤
（クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・
フラメトピル 4.0%粒剤）
・スタウト顆粒水和剤

（イソチアニル 40.0%水和剤）
・ルーチンフロアブル
（イソチアニル 18.3%水和剤）
・サイクルヒット箱粒剤及びフルターボ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・
フラメトピル 4.0%粒剤）
・スタウトダントツ顆粒水和剤及びツインターボ顆粒水和剤
（クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤）
・エバーゴルフォルテ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）
・エバーゴルワイド箱粒剤及びエバーゴルプラス箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）
・箱王子粒剤
（クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・スタウトパディート箱粒剤、ルーチンデュオ箱粒剤、ツインパディート箱粒剤及びルーチンパンチ箱粒剤
（シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・ルーチンエキスパート箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・
ペンフルフェン 2.0%粒剤）
・スタウトパディートＤＸ箱粒剤
（クロチアニジン 0.80%・シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・箱大臣粒剤
（クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）
・ハコナイト粒剤
（クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・ルーチンブライト箱粒剤
（シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）
・スクラム箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）
・防人箱粒剤

（クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・
イソチアニル 2.0%粒剤）
・箱維新粒剤及び箱将軍粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）
・フルスロットル箱粒剤
（シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）
・ルーチンコア箱粒剤
（チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・ルーチンシードＦＳ
（イソチアニル 41.7%水和剤）
・ヨーバルトップ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・ミネクトブラスター顆粒水和剤
（シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤）
・ヨーバルパワーＥＶ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）
・ヨーバルプライムＥＶ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）
・ヨーバルＵＧ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・スタウトアレス箱粒剤及び稲名人箱粒剤
（オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）
・ミネクトフォルスターＳＣ
（シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤）
・スタウトアレスモンガレス箱粒剤及び稲大将箱粒剤
（オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤）
・レアフロアブル
（イソチアニル 18.3%水和剤）

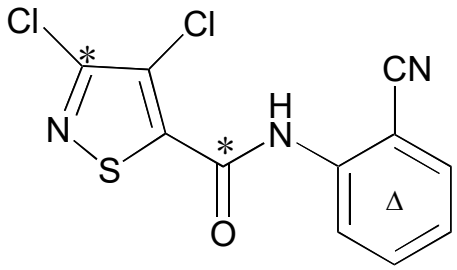
II. 安全性に係る試験の概要

イソチアニルは、令和５年 11 月１日食品安全委員会において、食品健康影響評価（資料１）がなされている。食品安全委員会では、評価に用いた試験成績において、過去のテストガイドラインに基づき実施されている試験も確認されたが、イソチアニルの代謝・毒性プロファイルを適切に把握できることから、評価は可能と判断されている。

1. 動物代謝（資料 2、3）

イソチアニルのイソチアゾール環の 3 位の炭素及びカルボニル炭素を ^{14}C で標識したもの（以下「[iso-^{14}C]イソチアニル」という。）又はフェニル基の炭素を均一に ^{14}C で標識したもの（以下「[phe-^{14}C]イソチアニル」という。）を用いて実施された（表１）。

表 1　標識化合物

略称	[iso-^{14}C]イソチアニル	[phe-^{14}C]イソチアニル
構造式		
標識位置	イソチアゾール環の3位の炭素（*）及びカルボニル炭素（*）を標識	フェニル基（Δ）の炭素を均一に標識

1-1. 代謝の要約

単回経口投与ラットにおいて、投与後 168 時間までに、高用量（200 mg/kg 体重）群では、雄で 82.2～86.8%TAR が糞中に、10.0～14.2%TAR が尿中に、雌で 80.6～88.2%TAR が糞中に、10.4～13.7%TAR が尿中に排泄され、低用量（4 mg/kg 体重）群では、雄で 57.2～63.8%TAR が糞中に、31.5～35.5%TAR が尿中に、雌で 58.9～66.5%TAR が糞中に、30.0～34.0%TAR が尿中に排泄された。標識体、投与量及び性別にかかわらず、主に糞中に排泄された。

低用量単回経口投与胆管カニューレ挿入ラットにおいて、投与後 48 時間までに、雄で 5.2～13.1%TAR が糞中に、18.8～24.6%TAR が尿中に、46.2～59.4%TAR が胆汁中に、雌で 4.6～12.8%TAR が糞中に、14.7～19.1%TAR が尿中に、56.1～63.8%TAR が胆汁中に排泄された。尿、胆汁中排泄率及びカーカス中放射能の合計より、経口吸収率は 72.5%～85.9%と算出された。

単回経口投与ラットにおいて、多くの組織では、T_{max} 付近で最高濃度を示し、その後投与 168 時間後まで、経時的に減少した。

血漿中より放射性物質濃度の高かった組織は少なかったが、いずれの投与群及び測定時点でも、肝臓（T_{max} 付近の高用量：18.8～29.8 μg/g、T_{max} 付近の低用量：1.95～2.33 μg/g）及び腎臓（T_{max} 付近の高用量：11.2～16.3 μg/g、T_{max} 付近の低用量：0.693～1.16 μg/g）において、血漿中（T_{max} 付近の高用量：3.71～5.44 μg/g、T_{max} 付近の低用量：0.241～0.341 μg/g）より、放射性物質濃度が高かった。また、投与 168 時間後では、血漿中の放射性物質は検出限界未満であったが、血球中に比較的高い濃度（高用量：0.352～0.977 μg/g、低用量：0.015～0.029μg/g）が存在した。

単回経口投与ラットにおいて、糞中のイソチアニルは、高用量で 70.1～80.2%TAR であり、低用量で 20.5～31.1%TAR であった。主な代謝物は、M7、M8 及び M9 であった（代謝物記号は別紙 1 に示す）。

尿中には、イソチアニルは検出されず、主な代謝物は、M1、M6 の硫酸抱合体、M7、M7 のグルクロン酸抱合体及び M9 であった。

肝臓中には、イソチアニルは高用量で 3.65～5.2%TAR、低用量で 0.22～0.53％TAR であった。主な代謝物は、M1、M6 の硫酸抱合体及び M7 であった。

腎臓中のイソチアニルは高用量で 0.25～0.64%TAR、低用量で 0.014～0.077%TAR であった。

血漿中のイソチアニルは高用量で 0.065～0.25%TAR、低用量で 0.001～0.013%TAR であった。

腎臓中、血漿中の主な代謝物は、M1、M6 の硫酸抱合体、M7、M7 のグルクロン酸抱合体、M8 及び M9 であった。

低用量単回経口投与胆管カニューレ挿入ラットにおいては、糞中のイソチアニルは 3.9～11.9%TAR であり、代謝物は検出されなかった。

尿中及び胆汁中にはイソチアニルは検出されず、尿中の主な代謝物は M1、M6 の硫酸抱合体及び M7 であり、胆汁中の主な代謝物は、M7 及び M7 のグルクロン酸抱合体、M8 のグルクロン酸抱合体、M9 のグルクロン酸抱合体並びに M10 であった。

イソチアニルのラットにおける主要代謝経路は、フェニル基の水酸化、アミド結合の加水分解及び抱合反応（グルクロン酸抱合及び硫酸抱合）であると考えられた（別紙３）。

1-2. 経口吸収率

胆管カニューレを挿入した Wistar ラット（一群雌雄各 4 匹）に、[iso-^{14}C]イソチアニル又は[phe-^{14}C]イソチアニルを、低用量で単回経口投与し、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 48 時間の尿、糞及び胆汁中排泄率を表 2 に示す。標識体又は性別にかかわらず、主に胆汁を経由して排泄された。

表 2　投与後 48 時間の尿、糞及び胆汁中排泄率（%TAR）

標識体	[iso-^{14}C]イソチアニル		[phe-^{14}C]イソチアニル	
性別	雄	雌	雄	雌
尿*	24.6	14.7	18.8	19.1
糞	13.1	12.8	5.2	4.6
胆汁*	46.2	56.1	59.4	63.8
カーカス*	1.7	2.6	1.9	3.0
消化管内容物	1.5	2.4	11.8	4.8
計	87.1	88.6	97.2	95.3
経口吸収率*	72.5	73.4	80.1	85.9

*：経口吸収率 = 尿+胆汁+カーカス

尿及び胆汁中排泄率及びカーカス中放射能の合計より、経口吸収率は 72.5%～85.9%と算出された。標識体又は性別ごとに代謝に顕著な違いはないことから、各群・各個体の経口吸収率を算術平均したところ、78.7%であり、AOEL 及び AAOEL の設定には、経口吸収率による補正が必要であると判断した。

2. 毒性試験の結果概要

イソチアニルの急性毒性は経口、経皮、吸入のいずれの投与経路においても弱く（LD_{50}（経口）: >2000 mg/kg 体重、LD_{50}（経皮）: >2000 mg/kg 体重、LC_{50}（吸入）>4.75 mg/L）、眼と皮膚に対して中等度の刺激性が認められ、皮膚感作性（Maximization 法）が認められた。

イソチアニル投与による影響は、主に胃（前胃境界部粘膜上皮過形成 : ラット）、肝臓（重量増加等）及び腎臓（慢性腎症等）に認められた。ラットでは、雌雄とも投与に関連して前胃境界部粘膜上皮過形成が認められ、細胞増殖活性の亢進が確認されたが、長期の飼育においても胃の腫瘍発生の増加は認められなかった。発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び遺伝毒性は認められなかった。

毒性試験の概要を表 3 に示す。

表 3　各試験における無毒性量等

急性毒性			
試験	投与量	LD_{50} 又は LC_{50}	観察された症状
急性経口毒性 ラット GLP(資料 4)	雌：2000 mg/kg 体重	LD_{50} 雌 : >2000 mg/kg 体重	症状及び死亡例なし
急性経皮毒性 ラット GLP(資料 5)	雌雄：2000 mg/kg 体重	LD_{50} 雌雄 : >2000 mg/kg 体重	症状及び死亡例なし
急性吸入毒性（ﾀﾞｽﾄ） ラット GLP(資料 6)	雌雄：4.75 mg/L （鼻部暴露）	4 時間 LC_{50} 雌雄：>4.75 mg/L	雌のみ体重増加抑制 死亡例なし
試験	結果		
皮膚刺激性 ウサギ GLP(資料 7)	刺激性は認められない		
眼刺激性 ウサギ GLP(資料 8)	刺激性は認められない		
皮膚感作性 （Maximization 法） モルモット GLP(資料 9)	皮膚感作性が認められた		

短期毒性				
試験	投与量[1] (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
90 日間 反復経口 投与毒性 ラット GLP(資料 10)	雌雄：0、20、500、2500、20000 ppm 雄：0、1.18、29.7、148、1240 雌：0、1.39、35.1、178、1400	雄：29.7 雌：35.1	雄：148 雌：178	20000ppm 雄：体重増加抑制、食餌効率減少、GGT 増加、肝絶対重量増加、前胃境界部粘膜上皮過形成 雌：GGT 増加、腎比重量増加、尿比重減少、前胃境界部粘膜上皮過形成 2500ppm 以上 雄：T.Chol 増加、肝比重量増加 雌：T.Chol 増加、肝絶対及び比重量増加
90 日間 反復経口 投与毒性 マウス GLP(資料 11)	雌雄：0、150、1000、7000 ppm 雄：0、33.1、204、1310 雌：0、54.8、401、2470	雄：1310 雌：2470	雄：- 雌：-	毒性所見なし
90 日間 反復経口 投与毒性 イヌ GLP (資料 12)	雌雄：0、500、2000、8000 ppm 雄：0、12.2、51.1、200 雌：0、13.4、54.4、211	雄：12.2 雌：13.4	雄：51.1 雌：54.4	8000 ppm 雄：ALP・AST・GGT 増加、肝絶対及び比重量増加、小葉中心性肝細胞肥大、肝胆管増生 雌：嘔吐、発情徴候の高頻度の発現(血様分泌物)、ALP・GGT・T.Chol 増加、肝・卵巣・子宮絶対及び比重量増加、小葉中心性肝細胞肥大、肝胆管増生 2000 ppm 以上 雄：ALT 増加 雌：ALT、TG 増加
1 年間 反復経口 投与毒性 イヌ GLP (資料 13)	雌雄：0、200、1000、5000/3000[2] ppm 雄：0、5.22、27.2、107 雌：0、5.33、26.9、110	雄：5.22 雌：5.33	雄：27.2 雌：26.9	5000/3000 ppm 雌雄：嘔吐、軟便、下痢、皮膚の創傷・痂皮・膨隆・肥厚・腫脹、眼球混濁、結膜充血、眼脂、流涙、体重増加抑制、RBC 減少、WBC 増加、APTT 延長、AST・TP・Glob 増加、Alb 減少、着色尿(黄色尿)、角膜混濁、腎及び脾絶対及び比重量増加、骨髄造血亢進、胸腺嚢胞リンパ節炎、肝細胞褐色色素沈着、肝炎(肝細胞変性、壊

[1] 混餌投与試験については、混餌濃度を ppm として併記した。投与量は平均検体摂取量として摂餌量と試験動物の体重から以下のように算出された値。

投与量（mg/kg 体重/日）= 混餌濃度 ppm × 1 日当たりの摂餌量 ÷ 試験動物体重

[2] 5000 ppm 投与群では、投与開始 26 週後の血液生化学的検査において、肝機能関連値の明らかな変化が認められ、同群の一部の個体では摂餌量減少も認められたため、雄は投与開始 31 週後、雌は 30 週後から、投与量を 3000 ppm に変更した。

				死)、胆嚢粘膜上皮過形成、腎尿細管拡張　等 1000 ppm 以上 雄： ALT 増加、肝絶対及び比重量増加、小葉中心性肝細胞肥大、胆管増生　等 雌：ALT 増加、脾絶対重量増加、腎近位尿細管上皮褐色色素沈着

遺伝毒性（原体）

試験	試験系	試験濃度	結果
復帰突然変異(Ames) GLP(資料 14)	*Salmonella typhimurium* (TA98、TA100、TA102、TA1535、TA1537 株)	16～5000 μg/プレート(+/-S9)	陰性
染色体異常 GLP(資料 15)	チャイニーズハムスター肺由来細胞(V79)	7～28 μg/mL (4 時間処理、+/-S9) (18 時間処理、-S9)	陰性
UDS 試験 GLP(資料 16)	ラット初代培養肝細胞	0.5～25 μg/mL (18.5 時間処理)	陰性
小核 GLP(資料 17)	ICR マウス(骨髄細胞) (一群雄 5 匹)	500、1000、2000 mg/kg 体重 (24 時間間隔で 2 回、強制経口投与、投与 24 時間後に採取)	陰性

長期毒性及び発がん性

試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
1 年間 反復経口 投与毒性 ラット GLP (資料 18)	雌雄：0、60、600、6000、20000 ppm 雄：0、2.83、27.9、291、979 雌：0、3.70、37.3、381、1250	雄：2.83 雌：3.70	雄：27.9 雌：37.3	20000 ppm 雄：Hb・Ht・MCV・MCH 減少、網状赤血球数増加、甲状腺比重量増加、肝絶対重量増加、び漫性肝細胞肥大、尿細管好塩基性化、腎絶対及び比重量増加 雌：体重増加抑制、Hb・MCH・MCHC 減少、GGT 増加、肺胞壁細気管支化 6000 ppm 以上 雄：GGT 増加、肺胞壁細気管支化、前胃境界部粘膜上皮過形成、近位尿細管直部腔拡張 雌：前胃境界部粘膜上皮過形成 600 ppm 以上 雌雄：T.Chol 増加、肝比重量増加
2 年間 発がん性 ラット GLP (資料 19)	雌雄：0、2000、6000、20000 ppm 雄：0、79.2、242、823 雌：0、105、311、1050	雄：<79.2 雌：<105	雄：79.2 雌：105	20000 ppm 雄：眼球混濁、被毛汚れ、体重増加抑制、近位尿細管直部腔拡張 雌：体重増加抑制、び漫性肝細胞肥大、肺胞壁細気管支化 6000 ppm 以上 雄：肝絶対及び比重量増加、び漫性肝細胞肥大、慢性腎症、肺胞壁細気管支化

				雌：肝絶対及び比重量増加 2000 ppm 以上 雄：前胃境界部粘膜上皮過形成 雌：慢性腎症、前胃境界部粘膜上皮過形成 発がん性は認められなかった。
18 か月間 発がん性 マウス GLP(資料 20)	雌雄：0、70、700、7000 ppm 雄：0、6.89、71.5、706 雌：0、6.66、67.2、667	雄：706 雌：667	雄：- 雌：-	毒性所見なし 発がん性は認められなかった。

生殖・発生毒性

試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
二世代 繁殖毒性 ラット GLP (資料 21)	雌雄：0、50、1000、10000 ppm P 雄：0、3.35、66.8、662 P 雌：0、4.16、83.9、831 F_1 雄：0、4.05、80.6、823 F_1 雌：0、4.74、95、941	親動物及び 児動物： P 雄：3.35 P 雌：4.16 F_1 雄：4.05 F_1 雌：4.74	親動物及び 児動物： P 雄：66.8 P 雌：83.9 F_1 雄：80.6 F_1 雌：95	親動物 10000ppm 雄：肝絶対重量増加 雌：体重増加抑制 1000ppm 以上 雄：体重増加抑制、肝絶対及び比重量増加、摂餌量減少 雌：肝絶対及び比重量増加 児動物 1000ppm 以上 雌雄：低体重 繁殖能に対する影響は認められなかった。
発生毒性 ラット GLP (資料 22)	0、100、300、1000 (妊娠 6～19 日投与)	母動物：1000 胎児　：1000	母動物：- 胎児　：-	毒性所見なし 催奇形性は認められなかった。 母動物では、検体投与の影響は認められなかった。 胎児では、100 mg/kg 体重/日以上投与群で、骨化亢進を示す所見として、頭頂骨、頭頂間骨、上後頭骨、側頭骨及び頬骨の不完全骨化の発現頻度の減少が、骨化遅延を示す所見として、鼻骨の不完全骨化の発現頻度の増加が認められた。これらの所見は、別に実施した補足試験①（資料 28）でも再現性が認められたが、生後 21 日までには回復が認められ、また、生後 70 日までの児動物の生育に影響が認められなかったことから、毒性所見と考えられなかった。なお、これらの骨化変化の無影響量は、補足試験②（資料 30）より、1 mg/kg 体重/日であると考えられた。

発生毒性 ウサギ GLP (資料 23)	0、100、300、1000 (妊娠 6～7 日投与)	母動物：300 胎児　：300	母動物：1000 胎児　：1000	1000 mg/kg 体重/日 母動物：体重増加抑制、摂餌量減少、胎盤重量減少、肝腫大、肝退色、肝小葉明瞭化 胎児　：低体重 催奇形性は認められなかった。

生体機能への影響(資料 24)GLP

試験		投与量 (mg/kg 体重/日) (投与経路)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
中枢神経系	一般症状(Irwin 法) ラット	雌雄：0、200、600、2000 (経口)	雌雄：2000	雌雄：―	投与による影響なし
	自発運動量 ラット	雄：0、200、600、2000 (経口)	雄：2000	雄：―	投与による影響なし
	ペンテトラゾール誘発痙攣 協力作用 ラット	雄：0、200、600、2000 (経口)	雄：2000	雄：―	投与による影響なし
	ペンテトラゾール誘発痙攣 拮抗作用 ラット	雄：0、200、600、2000 (経口)	雄：2000	雄：―	投与による影響なし
呼吸循環器系	呼吸数･1 回換気量･分時換気量 ラット	雄：0、200、600、2000 (経口)	雄：2000	雄：―	投与による影響なし
	血圧・心拍数・心電図 イヌ	雄：0、200、600、2000 (カプセル経口)	雄：2000	雄：―	投与による影響なし
腎機能	尿量・尿中電解質・尿浸透圧 ラット	雄：0、200、600、2000 (経口)	雄：2000	雄：―	投与による影響なし

その他（メカニズム等）

試験	概要
前胃細胞増殖性の検討 ラット (資料 25)	ラットを用いた 90 日間反復経口投与毒性試験（資料 10）、1 年間反復経口投与毒性試験（資料 18）及び 2 年間発がん性試験（資料 19）において、雌雄とも前胃境界部粘膜上皮過形成が認められたため、90 日間反復経口投与毒性試験で得られた胃の標本を用いて、前胃粘膜上皮における細胞増殖性について検討された。 免疫組織化学的染色によって、細胞増殖マーカーである Ki-67 の標識率を検討した。対照群において、前胃部よりも境界部で Ki-67 標識率が高く、境界部の粘膜上皮細胞の増殖活性は高いと考えられた。また、20000 ppm 投与群の雌雄の前胃境界部で、Ki-67 標識率は対照群より有意に高い値を示した。 したがって、イソチアニル投与により、雌雄とも前胃境界部粘膜上皮の細胞増殖活性が亢進したものと考えられた。
1 週間反復経口投与による前胃細胞増殖性の検討 ラット	投与初期における前胃境界部の細胞増殖性を検討するために、Wistar ラット（一群雄 20 匹）を用いた 1 週間の混餌投与（原体：0、60、20000 ppm：平均検体摂取量は下表参照）による前胃細胞増殖性検討試験が実施された。 表　前胃細胞増殖検討試験（ラット）の平均検体摂取量

<table>
<tr><td>(資料 26)</td><td>
<table>
<tr><td>投与群</td><td>60 ppm</td><td>20000 ppm</td></tr>
<tr><td>平均検体摂取量(mg/kg体重/日)</td><td>6.7</td><td>2360</td></tr>
</table>
死亡例は認められなかった。20000 ppm 投与群で体重増加抑制が認められた。
前胃及び前胃境界部の 5-ブロモ-2’-デオキシウリジン（BrdU）免疫組織化学的染色を実施したところ、前胃部では、いずれの投与群も BrdU 標識率は対照群と同等であったが、前胃境界部では、20000 ppm 投与群において、対照群と比べ、BrdU 標識率の増加傾向、総細胞数及び BrdU 標識細胞数の統計学的に有意な増加が認められた。また、前胃境界部では、病理組織学的検査において、20000 ppm 投与群で軽微な角化亢進が認められた。
以上より、イソチアニルの 1 週間混餌投与においても、前胃境界部の細胞増殖活性が亢進したことが示唆された。</td></tr>
<tr><td>変異肝細胞巣の検討
ラット
(資料 27)</td><td>ラットを用いた 2 年間発がん性試験（資料 19）において、全投与群の雄において、肝臓の変異肝細胞巣（好酸性）増加が認められた。この所見は用量相関性がなく、肝臓に腫瘍性病変が認められなかったことから、毒性所見と考えられなかったが、この所見の意義を明確にするため、2 年間発がん性試験で得られた雄の肝臓の標本を用いて、GST-P 陽性細胞巣発現について検討された。
免疫組織化学的染色によって、肝臓における GST-P 陽性細胞巣の発現数を検討した。6000 ppm 以上投与群で、GST-P 陽性細胞巣の有意な減少が認められた。</td></tr>
<tr><td>発生毒性試験補足試験①
ラット
GLP(資料 28)</td><td>ラットを用いた発生毒性試験（資料 22）で、胎児の頭蓋骨に認められた骨化変化の再現性及び生後の回復性を確認するため、Wistar ラット（一群雌 15 匹）の妊娠 6～19 日にイソチアニルを強制経口投与（原体：0、1000 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC-Na 水溶液）して、発生毒性試験補足試験が実施された。
対照群及び検体投与群とも、妊娠 20 日に帝王切開をおこなった帝王切開群と、生後の回復性を確認するための分娩群（最長生後 70 日まで飼育）を設定した。
母動物では、帝王切開群では検体投与の影響は認められなかった。検体投与群の分娩群では、2 例に分娩前に著しい体重減少、立毛及び分娩遅延が認められ、この 2 例の母動物が分娩した児動物は、出産日に全児が死亡した。
胎児では、検体投与群の帝王切開群で、発生毒性試験で認められた骨化変化がほぼ再現し、頭頂骨の骨化亢進、鼻骨の骨化遅延等が認められた。分娩群の児動物は、検体投与群で体重増加抑制が認められたが、生後 21 日の頭部骨格検査で形態的な異常はなく、骨化状態に対照群との差は認められなかった。生存率に検体投与の影響は認められなかった。
以上より、イソチアニル投与により、ラット胎児に認められた骨化変化は、生後 21 日には回復性が認められ、生後 70 日までの児動物の生存や生育に影響は認められなかったため、毒性所見とは考えられなかった。</td></tr>
<tr><td>哺育試験（妊娠期間に対する影響の検討：ラット）
GLP
(資料 29)</td><td>発生毒性試験補足試験①（資料 28）において、1000 mg/kg 体重/日投与群の母動物に分娩遅延及び児動物の死亡が認められたため、再現性を確認するために Wistar ラット（一群雌 25 匹）の妊娠 6～19 日に、イソチアニルを強制経口投与（原体：0、1000 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC-Na 水溶液）する試験が実施された。
投与群の母動物では、一般状態及び体重に影響は認められず、著しい分娩遅延も認められなかった。また、全児動物が出産日に死亡した母動物もいなかった。
児動物では、分娩日の死亡児数に対照群との差は認められず、生後 4 日までの生存率及び体重にも、検体投与の影響は認められなかった。
したがって、発生毒性試験補足試験①において認められた分娩遅延等の所見は再現されなかった。</td></tr>
<tr><td>発生毒性試験補足試験②
ラット</td><td>ラットを用いた発生毒性試験（資料 22）で、胎児の頭蓋骨に認められた骨化変化について、無影響量を検討するため、Wistar ラット（一群雌 25 匹）の妊娠 6～19 日にイソチアニルを強制経口投与（原体：0、1、10、100 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC-Na 水溶液）して、発生毒性試験補足試験が</td></tr>
</table>

GLP(資料 30)	実施された。 母動物では、検体投与の影響は認められなかった。 胎児では、100 mg/kg 体重/日投与群で両側頭頂骨の不完全骨化の発現頻度の減少が認められ、10 mg/kg 体重/日以上投与群で頭頂間骨の発現頻度の減少及び鼻骨の不完全骨化の発現頻度の増加が認められた。 本試験より、胎児における骨化変化の無影響量は、1 mg/kg 体重/日であると考えられた。

ラットを用いた 2 年間発がん性試験において、無毒性量が設定できなかったが、試験が高用量で実施されたことによるものであった。

食品安全委員会農薬第一専門調査会は、各試験で得られた無毒性量の最小値がラットを用いた 1 年間慢性毒性試験の 2.83 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.028 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、イソチアニルの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性参照用量（ARfD）は設定する必要がないと判断されている。

3．公表文献における研究結果（資料 31）

Web of Science（Core Collection）、MEDLINE、KCI-Korean Journal Database、Russian Science Citation Index、SciELO Citation Index 及び J-STAGE を用いて、それぞれ 2006～2021 年を検索対象期間として、有効成分名及びイソチアニルを含む製剤名をキーワードとして公表文献を検索し、評価対象となる影響、評価対象の生物種等についてガイドライン[3]で定めるキーワードで絞り込みが行われた。

Web of Science、MEDLINE、KCI-Korean Journal Database、Russian Science Citation Index 及び SciELO Citation Index を用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当するとして収集された公表文献 9 報の中で、評価の目的と適合するものはないと判断した。

J-STAGE を用いた場合、全文に基づく適合性評価の対象となるヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当する公表文献は 0 報であった。

[3] 公表文献の収集、選択等のためのガイドライン（令和 3 年 9 月 22 日 農業資材審議会農薬分科会決定）

表 4　イソチアニルに関する公表文献の検索結果

データベース名	Web of Science(Core Collection) 、MEDLINE、KCI-Korean Journal Database、Russian Science Citation Index 、SciELO Citation Index
検索対象期間	2006/7/1～2021/6/30
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	18
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	9
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	0
評価に用いた文献数	0
データベース名	J-STAGE
検索対象期間	2006/7/1～2021/6/30
検索結果	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	62
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	0
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	0
評価に用いた文献数	0

III. 農薬使用者暴露許容量（AOEL）

急性毒性試験の結果において、経皮又は吸入経路特異的な毒性は見られなかったこと及び農薬としての使用方法から、イソチアニルの農薬使用者暴露許容量（AOEL）の設定に当たっては、経皮又は吸入経路特異的な毒性を考慮する必要はないと判断した。よって経口投与による短期毒性試験及び生殖・発生毒性試験の結果に基づき AOEL を設定する（表 5）。

各試験で得られたイソチアニルの無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた二世代繁殖毒性試験の親動物の肝絶対及び比重量増加等、児動物の低体重に基づく無毒性量 3.35 mg/kg 体重/日であった。

また、1-2.に示したとおり、ラットを用いた胆汁中排泄試験の結果から、AOEL の設定に当たっては、4 mg/kg 体重投与群の経口吸収率である 78.7%を用いて補正の必要があると判断した。

以上の結果から、ラットを用いた二世代繁殖毒性試験の無毒性量 3.35 mg/kg 体重/日を経口吸収率 78.7%により補正し、安全係数 100 で除した 0.026 mg/kg 体重/日を農薬使用者暴露許容量（AOEL）と設定した。

AOEL	0.026 mg/kg 体重/日
（AOEL 設定根拠試験）	繁殖毒性試験
（動物種）	ラット
（期間）	2 世代
（投与方法）	混餌
（無毒性量）	3.35 mg/kg 体重/日
（毒性所見）	肝絶対及び比重量増加等
（安全係数）	100
（経口吸収率）	78.7%（ラット）

表 5　AOEL の設定に関連する毒性影響等

短期毒性				
試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	備考
90 日間反復経口投与毒性 ラット GLP(資料 10)	雌雄：0、20、500、2500、20000 ppm 雄：0、1.18、29.7、148、1240 雌：0、1.39、35.1、178、1400	雄：29.7 雌：35.1	雄：148 雌：178	雄：T.Chol 増加、肝比重量増加 雌：T.Chol 増加、肝絶対及び比重量増加
90 日間反復経口投与毒性 マウス GLP(資料 11)	雌雄：0、150、1000、7000 ppm 雄：0、33.1、204、1310 雌：0、54.8、401、2470	雄：1310 雌：2470	雄：- 雌：-	毒性所見なし
90 日間反復経口投与毒性 イヌ GLP(資料 12)	雌雄：0、500、2000、8000 ppm 雄：0、12.2、51.1、200 雌：0、13.4、54.4、211	雄：12.2 雌：13.4	雄：51.1 雌：54.4	雄：ALT 増加 雌：ALT、TG 増加
1 年間反復経口投与毒性 イヌ GLP(資料 13)	雌雄：0、200、1000、5000/3000 ppm 雄：0、5.22、27.2、107 雌：0、5.33、26.9、110	雄：5.22 雌：5.33	雄：27.2 雌：26.9	雄：ALT 増加、肝絶対及び比重量増加、小葉中心性肝細胞肥大、胆管増生　等 雌：ALT 増加、脾絶対重量増加、腎近位尿細管上皮褐色色素沈着
生殖・発生毒性				
試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/日)	LOAEL (mg/kg 体重/日)	所見
二世代繁殖毒性 ラット GLP(資料 21)	雌雄：0、50、1000、10000 ppm P 雄：0、3.35、66.8、662 P 雌：0、4.16、83.9、831 F_1 雄：0、4.05、80.6、823 F_1 雌：0、4.74、95.0、941	親動物及び児動物： P 雄：3.35 P 雌：4.16 F_1 雄：4.05 F_1 雌：4.74	親動物及び児動物： P 雄：66.8 P 雌：83.9 F_1 雄：80.6 F_1 雌：95.0	親動物 雄：体重増加抑制、肝絶対及び比重量増加、摂餌量減少 雌：肝絶対及び比重量増加 児動物 1000ppm 以上 雌雄：低体重 繁殖能に対する影響は認められなかった。
発生毒性 ラット GLP(資料 22)	0、100、300、1000 (妊 6～19 日投与)	母動物：1000 胎児　：1000	母動物：- 胎児　：-	毒性所見なし 催奇形性は認められなかった。
発生毒性 ウサギ GLP(資料 23)	0、100、300、1000 (妊 6～7 日投与)	母動物：300 胎児　：300	母動物：1000 胎児　：1000	母動物：体重増加抑制、摂餌量減少、胎盤重量減少、肝腫大、肝退色、肝小葉明瞭化 胎児　：低体重 催奇形性は認められなかった。

備考：最小毒性量で認められた所見の概要を示す。

IV．急性農薬使用者暴露許容量（AAOEL）

イソチアニルの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性農薬使用者暴露許容量（AAOEL）は設定する必要がないと判断した。

AAOEL	設定の必要なし

V. 暴露量の推計

1. 経皮吸収試験

イソチアニルを含有する農薬製剤で実施した経皮吸収試験結果は提出されていない。

2. 圃場における農薬使用者暴露

イソチアニルを含有する農薬製剤で実施した圃場における農薬使用者暴露試験結果は提出されていない。

3. 暴露量の推計

申請された製剤について、I. の 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（別添１）に従って使用した場合の暴露量を予測式により推計した。

推計に当たっては、「農薬使用者への影響評価ガイダンス」及び「予測式に分類していない使用方法についての使用者安全確保の考え方」（令和４年 12 月１日及び令和５年 12 月８日農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定）（以下「部会決定」という。）」に準拠した。

推計に用いたパラメータ等及び暴露量の推計結果を別添２に示す。

VI. リスク評価結果

I. の 5. 適用病害虫雑草等の範囲及び使用方法（別添１）に従って使用した場合の推計暴露量は、AOEL を下回っていた（別添２）。

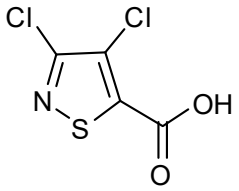
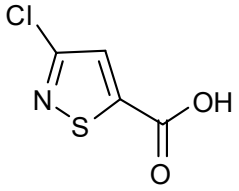
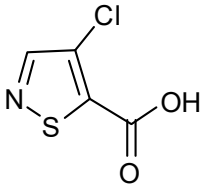
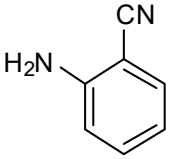
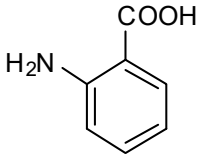
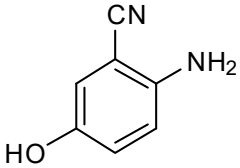
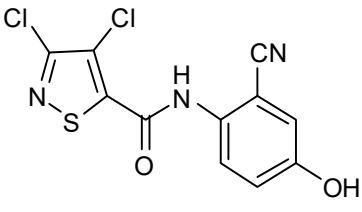
評価資料

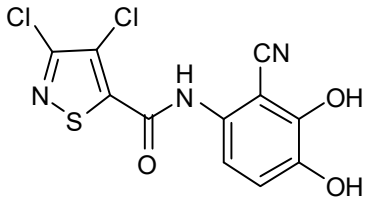
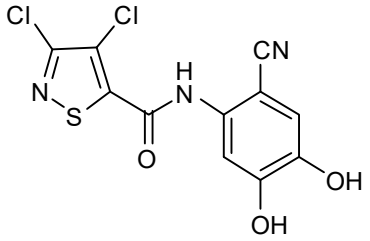
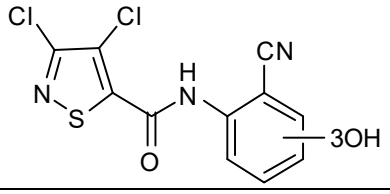
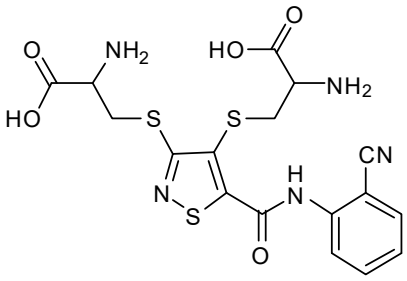
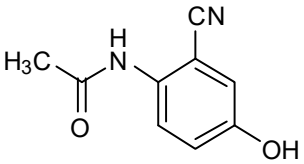
資料番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無	提出者
1	2023	農薬評価書　イソチアニル　食品安全委員会、公表 URL： https://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kya22121422801&fileId=210	―
2	2006	Metabolism of [^{14}C] S-2310 in Rats GLP、未公表	住友化学(株)
3	2006	S-2310 のラットにおける胆汁排泄試験 GLP、未公表	住友化学(株)
4	2005	Acute toxicity in the rat after oral administration GLP、未公表	住友化学(株)
5	2006	S-2310 原体のラットにおける急性経皮投与毒性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
6	2007	S-2310 原体のラットにおける急性吸入投与毒性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
7	2005	S-2310 原体のウサギにおける皮膚刺激性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
8	2005	S-2310 原体のウサギにおける眼刺激性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
9	2005	Study for the Skin Sensitization Effect in Guinea Pigs (Guinea Pig Maximization Test according to Magnusson and Kligman) GLP、未公表	住友化学(株)
10	2007	S-2310 原体のラットにおける 90 日間反復経口投与毒性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
11	2003	Study on Subchronic Toxicity in CD-1 Mice Dietary Administration for 3 Months GLP、未公表	住友化学(株)
12	2007	S-2310原体のイヌにおける90日間反復経口投与毒性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
13	2007	S-2310原体のイヌにおける1年間反復経口投与毒性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
14	2005	Salmonella/Microsome Test Plate Incorporation and Preincubation Method GLP、未公表	住友化学(株)
15	2005	In Vitro Chromosome Aberration Test with Chinese Hamster V79 Cells GLP、未公表	住友化学(株)

資料番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無	提出者
16	2011	Unscheduled DNA synthesis in primary hepatocytes of male rats in vitro with technical isotianil GLP、未公表	住友化学(株)
17	2006	S-2310 原体のマウスを用いる小核試験 GLP、未公表	住友化学(株)
18	2007	S-2310 原体のラットにおける 1 年間反復経口投与毒性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
19	2007	S-2310 原体のラットにおける発がん性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
20	2007	S-2310 原体のマウスにおける発がん性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
21	2007	S-2310原体のラットにおける繁殖毒性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
22	2007	Developmental Toxicity Study in Rats after Oral Administration GLP、未公表	住友化学(株)
23	2007	S-2310 原体のウサギにおける催奇形性試験 GLP、未公表	住友化学(株)
24	2007	S-2310 の生体機能に及ぼす影響 GLP、未公表	住友化学(株)
25	2007	S-2310 原体のラットにおける 90 日間反復経口投与毒性試験におけるラット前胃細胞増殖性検討試験 非 GLP、未公表	住友化学(株)
26	2007	S-2310 を 1 週間投与したラットにおける前胃細胞増殖性の検討試験 非 GLP、未公表	住友化学(株)
27	2007	「S-2310 原体のラットにおける発がん性試験」におけるラット肝臓の Glutathione S-transferase placental form (GST-P) 免疫染色評価試験 非 GLP、未公表	住友化学(株)
28	2007	Supplemental Developmental Toxicity Study in Rats after Oral Administration GLP、未公表	住友化学(株)
29	2007	Rearing Study in Rats after Oral Administration with Emphasis on Gestation Length at 1000 mg/kg GLP、未公表	住友化学(株)
30	2007	Supplemental Developmental Toxicity Study in Rats after Oral Administration to Determine a Threshold for Skull Ossification Effects GLP、未公表	住友化学(株)
31	2022	公表文献に関する報告書　有効成分名：イソチアニル URL：https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/33_shimon-42.pdf	住友化学(株)

資料番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無	提出者
32	2022	ドシエ　イソチアニル（殺菌剤） 未公表	住友化学(株)

別紙１　代謝物記号

記号	（略称）	化学名	構造式
M1	DCIT-Acid	3,4-dichloroisothiazole-5-carboxylic acid	
M2	3-CIT-Acid	3-chloroisothiazole-5-carboxylic acid	
M3	4-CIT-Acid	4-chloroisothiazole-5-carboxylic acid	
M4	Anthranilonitrile	2-aminobenzonitrile	
M5	Anthranilic acid	2-aminobenzoic acid	
M6	2-amino-5-hydroxybenzonitrile	2-amino-5-hydroxybenzonitrile	
M7	4'-OH-S-2310	3,4-dichloro-N-(2-cyano-4-hydroxyphenyl)isothiazole-5-carboxamide	

M8	3',4'-OH-S-2310	3,4-dichloro-N-(2-cyano-3,4-dihydroxyphenyl)isothiazole-5-carboxamide	
M9	4',5'-OH-S-2310	3,4-dichloro-N-(2-cyano-4,5-dihydroxyphenyl)isothiazole-5-carboxamide	
M10	Tri-OH-S-2310	3,4-dichloro-N-(2-cyano-trihydroxyphenyl)isothiazole-5-carboxamide	
M11	Malonyl-cysteinyl-イソチアニル	3-又は4-malonyl-cysteinyl-イソチアニル体	―
M12	Malonyl-cysteinyl-OH-イソチアニル	イソチアニル水酸化体の3-又は4-malonyl-cysteinyl体	―
M13	bis-cysteinyl-S-2310	2-amino-3-[3-(2-amino-2-carboxy-ethyl)sulfanyl-5-[(2-cyanophenyl)carbamoyl] isothiazol-4-yl]sulfanyl-propanoic acid	
M14	acetyl-2-amino-5-hydroxylbenzonitrile	N-acetyl-2-amino-5-hydroxylbenzonitrile	

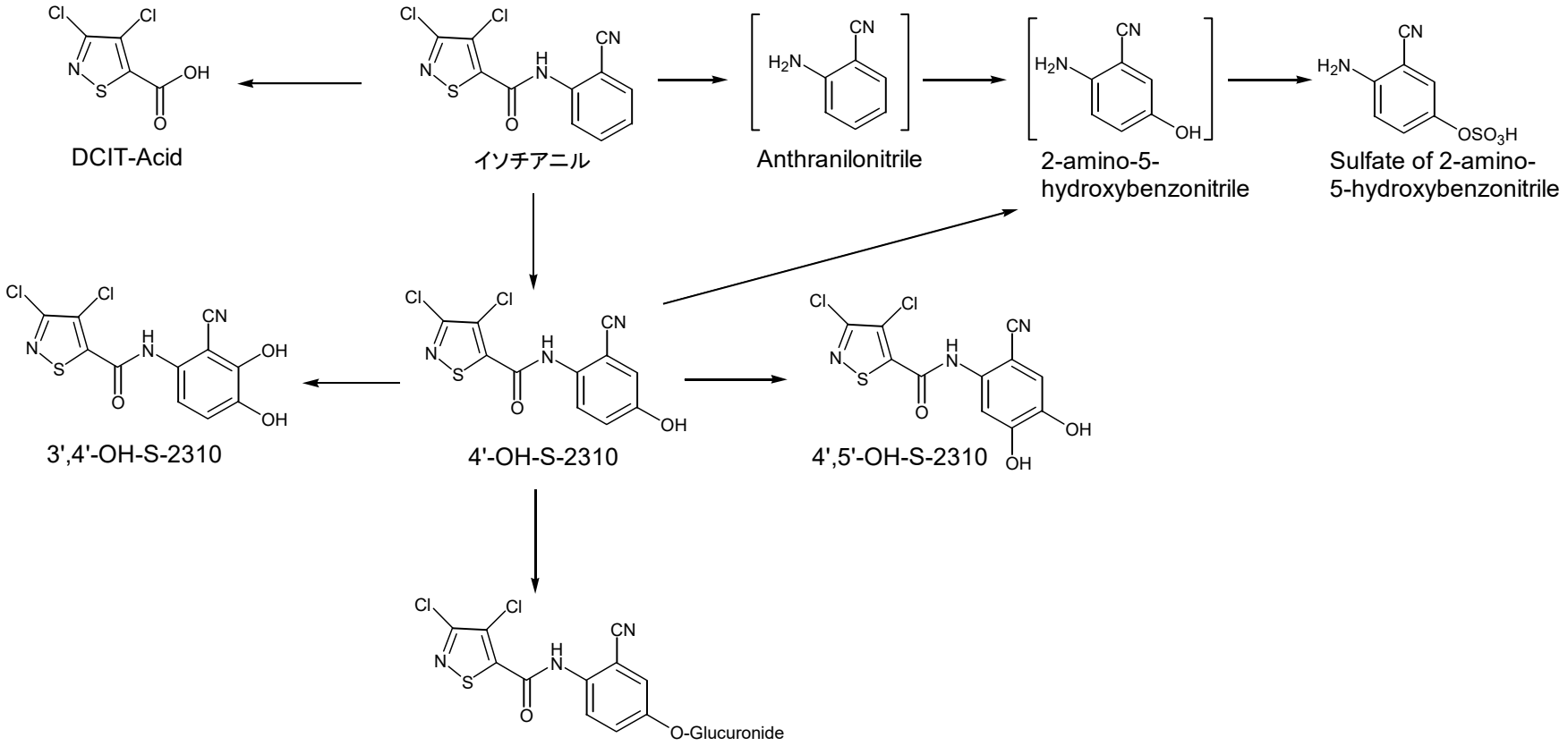
―：参照資料（資料 32）中に記載なし

別紙２　用語及び略語

ADI	Acceptable Daily Intake	許容一日摂取量
Alb	Albumin	アルブミン
ALP	Alkaline Phosphatase	アルカリホスファターゼ
ALT	alanine transaminase	アラニンアミノトランスフェラーゼ
APTT	Activated Partial Thromboplastin Time	活性化部分トロンボプラスチン時間
ARfD	Acute Reference Dose	急性参照用量
AST	Aspartate Aminotransferase	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ
GGT	gamma-glutamyl transpeptidase	γ-グルタミルトランスフェラーゼ［=γ-グルタミルトランスペプチダーゼ（γ-GTP）
Glob	globulin	グロブリン
GLP	good laboratory practice	優良試験所規範
Hb	hemoglobin	ヘモグロビン（血色素量）
Ht	haematocrit	ヘマトクリット値
LC_{50}	median lethal concentration	半数致死濃度
LD_{50}	median lethal dose	半数致死量
LOAEL	Lowest-Observed-Adverse-Effect Level	最小毒性量
MCH	Mean Corpuscular Haemoglobin	平均赤血球血色素量
MCHC	Mean Corpuscular Haemoglobin Concentration	平均赤血球血色素濃度
MCV	Mean Corpuscular Volume	平均赤血球容積
NOAEL	No-Observed-Adverse-Effect-Level	無毒性量
ppm	parts per million	百万分の1(10^{-6})
RBC	Red Blood Cell	赤血球数
TAR	Total Applied Radioactivity	総投与（処理） 放射性物質
T.Chol	total cholesterol	総コレステロール
TG	triglyceride	トリグリセリド
TP	total protein	総蛋白質
WBC	White Blood Cell	白血球数

別紙３　ラットにおけるイソチアニルの推定代謝経路

（資料 32）



別添１：適用病害虫の範囲及び使用方法（イソチアニル）

目　次

１．登録番号 22698：スタウトダントツ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....4

２．登録番号 22699：スタウトダントツ箱粒剤０８、登録番号 22700：ツインターボ箱粒剤０８
（クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....6

３．登録番号 22701：ルーチン粒剤、登録番号 22702：クミアイルーチン粒剤
（イソチアニル 3.0%粒剤）.....8

４．登録番号 22703：ルーチンアドマイヤー箱粒剤、登録番号 22704：クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤　（イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....9

５．登録番号 22705：ルーチンアドスピノ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....10

６．登録番号 22706：ルーチンアドスピノＧＴ箱粒剤、登録番号 23039：シャリオ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・チフルザミド 3.0%粒剤）....12

７．登録番号 22707：ルーチンバリアード箱粒剤
（チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....13

８．登録番号 22708：ツインターボフェルテラ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....14

９．登録番号 22915：ルーチントレス箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....15

１０．登録番号 23033：箱いり娘粒剤
（クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）..16

１１．登録番号 23186：スタウト顆粒水和剤
（イソチアニル 40.0%水和剤）.....18

１２．登録番号 23195：ルーチンフロアブル　（イソチアニル 18.3%水和剤）.....19

１３．登録番号 23204：サイクルヒット箱粒剤、登録番号 23205：フルターボ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）.....20

１４．登録番号 23206：スタウトダントツ顆粒水和剤、登録番号 23207：ツインターボ顆粒水和剤
（クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤）.....21

１５．登録番号 23458：エバーゴルフォルテ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）.....22

１６．登録番号 23459：エバーゴルワイド箱粒剤、登録番号 23627：エバーゴルプラス箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェ

ン 2.0%粒剤）.....23

１７．登録番号 23511：箱王子粒剤
（クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....24

１８．登録番号 23570：スタウトパディート箱粒剤、登録番号 23571：ルーチンデュオ箱粒剤、
登録番号 23621：ツインパディート箱粒剤、登録番号 23622：ルーチンパンチ箱粒剤
（シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....26

１９．登録番号 23634：ルーチンエキスパート箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）.28

２０．登録番号 23773：スタウトパディートＤＸ箱粒剤
（クロチアニジン 0.80%・シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....29

２１．登録番号 23890：箱大臣粒剤
（クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）.....31

２２．登録番号 24027：ハコナイト粒剤
（クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....32

２３．登録番号 24029：ルーチンブライト箱粒剤
（シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）.....33

２４．登録番号 24128：スクラム箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフル
フェン 2.0%粒剤）.....34

２５．登録番号 24129：防人箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....35

２６．登録番号 24130：箱維新粒剤、登録番号 24131：箱将軍粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメト
ピル 4.0%粒剤）.....36

２７．登録番号 24132：フルスロットル箱粒剤
（シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフ
ェン 2.0%粒剤）.....37

２８．登録番号 24158：ルーチンコア箱粒剤
（チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....38

２９．登録番号 24194：ルーチンシードＦＳ
（イソチアニル 41.7%水和剤）.....39

３０．登録番号 24319：ヨーバルトップ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....40

３１．登録番号 24473：ミネクトブラスター顆粒水和剤
（シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤）.....41

３２．登録番号 24474：ヨーバルパワーＥＶ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒

剤）.....42
３３．登録番号 24475：ヨーバルプライムＥＶ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）.....43
３４．登録番号 24476：ヨーバルＵＧ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....44
３５．登録番号 24514：スタウトアレス箱粒剤、登録番号 24516：稲名人箱粒剤
（オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）.....45
３６．登録番号 24597：ミネクトフォルスターＳＣ
（シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤）.....46
３７．登録番号 24615：スタウトアレスモンガレス箱粒剤、登録番号 24616：稲大将箱粒剤
（オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤）.....47
３８．登録番号　－　：レアフロアブル
（イソチアニル 18.3%水和剤）.....48

※新規登録申請中

１．登録番号 22698：スタウトダントツ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数</th><th>ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">稲
(箱育苗)</td><td rowspan="2">苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)
苗立枯細菌病
いもち病
白葉枯病
もみ枯細菌病
穂枯れ(ごま葉枯病菌)
内穎褐変病
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｳﾝｶ類
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ
ﾆｶﾒｲﾁｭｳ
ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ</td><td>育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50 g</td><td rowspan="2">は種前</td><td rowspan="3">1回</td><td rowspan="2">育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。</td><td rowspan="3">4回以内(移植時までの処理は1回以内､本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)</td><td rowspan="3">3回以内(移植時までの処理は1回以内､本田では2回以内)</td></tr>
<tr><td>高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)</td></tr>
<tr><td>いもち病
白葉枯病
もみ枯細菌病
穂枯れ(ごま葉枯病菌)
内穎褐変病
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｳﾝｶ類
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ
ﾆｶﾒｲﾁｭｳ
ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ</td><td>育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50 g
高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)</td><td>は種時(覆土前)~移植当日</td><td>育苗箱の上から均一に散布する。</td></tr>
<tr><td>苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)
苗立枯細菌病</td><td>育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50 g
高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)</td><td>は種時(覆土前)</td><td></td></tr>
</table>

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内､本田での散布､空中散布､無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内､本田では2回以内)
湛水直播水稲	いもち病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内､本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内､本田では2回以内)

２．登録番号 22699：スタウトダントツ箱粒剤０８、
登録番号 22700：ツインターボ箱粒剤０８
（クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稲	いもち病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					
	ｲﾈｸﾛｶﾒﾑｼ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	移植当日				
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					
稲	いもち病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

３．登録番号 22701：ルーチン粒剤、
登録番号 22702：クミアイルーチン粒剤
（イソチアニル 3.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)				育苗箱の床土に均一に混和する。	
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)				育苗箱の覆土に均一に混和する。	
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。	
	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病		は種時(覆土前)~移植当日			
稲	いもち病 白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	1 kg/10 a	収穫 30 日前まで	2 回以内	湛水散布	3 回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

４．登録番号 22703：ルーチンアドマイヤー箱粒剤、
登録番号 22704：クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の
使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数</th><th>ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="5">稲
(箱育苗)</td><td>内穎褐変病
穂枯れ(ごま葉枯病菌)</td><td rowspan="5">育苗箱
(30×60×3 cm、
使用土壌約 5 L)
1 箱当り 50 g</td><td>移植当日</td><td rowspan="5">1 回</td><td rowspan="2">育苗箱の上から均一に散布する。</td><td rowspan="5">3 回以内（移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内）</td><td rowspan="5">3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>白葉枯病
もみ枯細菌病</td><td>は種時(覆土前)
～
移植当日</td></tr>
<tr><td>いもち病
ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｪ
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
ｳﾝｶ類</td><td>は種前</td><td>育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ｲﾈｱｻﾞﾐｳﾏ</td><td>は種時(覆土前)
～
移植当日</td><td>育苗箱の上から均一に散布する。</td></tr>
<tr><td>は種前</td><td>育苗箱の床土に均一に混和する。</td></tr>
</table>

５．登録番号 22705：ルーチンアドスピノ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用数	使用方法	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ｲﾈｱｻﾞﾐｳﾏ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 2 日前~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病		移植当日					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)					
	白葉枯病 もみ枯細菌病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ いもち病		は種時(覆土前)~移植当日					
	ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ いもち病		は種前		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。			
	ｲﾈｱｻﾞﾐｳﾏ	高密度には種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 2 日前~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。			
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病		移植当日					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病		は種時(覆土前)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用数	使用方法	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	白葉枯病 もみ枯細菌病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ いもち病	高密度には種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

６．登録番号 22706：ルーチンアドスピノＧＴ箱粒剤、
登録番号 23039：シャリオ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・チフルザミド 3.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾁﾌﾙｻﾞﾐﾄﾞを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ いもち病 紋枯病 白葉枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 2 日前~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	もみ枯細菌病 内穎褐変病		移植当日						

７．登録番号 22707：ルーチンバリアード箱粒剤
（チアクロプリド 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾁｱｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	白葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)		は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)		は種時(覆土前)				
	もみ枯細菌病		移植当日				

８．登録番号 22708：ツインターボフェルテラ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数</th><th>ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数</th><th>ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="7">稲
(箱育苗)</td><td rowspan="2">いもち病
穂枯れ(ごま葉枯病菌)
白葉枯病
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｳﾝｶ類
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
ﾆｶﾒｲﾁｭｳ
ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ
ｲﾈﾂﾄﾑｼ
ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ
内穎褐変病</td><td>育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g</td><td rowspan="2">は種時(覆土前)~移植当日</td><td rowspan="6">1 回</td><td rowspan="3">育苗箱の上から均一に散布する。</td><td rowspan="6">4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人ﾍﾘ散布は合計 3 回以内)</td><td rowspan="6">1 回</td><td rowspan="6">3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)</td></tr>
<tr><td>苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)</td><td>育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g</td><td rowspan="2">は種時(覆土前)</td></tr>
<tr><td>高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)</td></tr>
<tr><td>穂枯れ(ごま葉枯病菌)
いもち病
白葉枯病
内穎褐変病</td><td rowspan="2">育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g</td><td rowspan="2">は種前</td><td>育苗箱の床土に均一に混和する。
育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。</td></tr>
<tr><td>穂枯れ(ごま葉枯病菌)
いもち病
白葉枯病
内穎褐変病</td><td>高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)</td><td>育苗箱の床土に均一に混和する。
育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。</td></tr>
</table>

９．登録番号 22915：ルーチントレス箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	ｲﾈｱｻﾞﾐｳﾏ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｳﾝｶ類 ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ いもち病		は種時(覆土前)～移植当日		育苗箱の上から均一に散布る。			
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 もみ枯細菌病							
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)		は種時(覆土前)					
	内穎褐変病		移植当日					

１０．登録番号 23033：箱いり娘粒剤
（クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾌﾗﾒﾄﾋﾟﾙを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稲	いもち病 紋枯病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ｷﾘｳｼﾞｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌)	育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50 g	移植7日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾌﾗﾒﾄﾋﾟﾙを含む農薬の総使用回数
	疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)							

１１．登録番号 23186：スタウト顆粒水和剤
（イソチアニル 40.0%水和剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 白葉枯病	200 倍 高密度には種する場合は 50 g/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 2.5~5 g(希釈倍数 100~200 倍))	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 500 mL	は種時覆土前~移植当日	1 回	灌注	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
		400 倍 高密度には種する場合は 50 g/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 2.5~5 g(希釈倍数 200~400 倍))	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 1000 mL				
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	200 倍 高密度には種する場合は 50 g/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 2.5~5 g(希釈倍数 100~200 倍))	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 500 mL	は種時覆土前			
		400 倍 高密度には種する場合は 50 g/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 2.5~5 g(希釈倍数 200~400 倍))	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 1000 mL				

１２．登録番号 23195：ルーチンフロアブル
（イソチアニル 18.3%水和剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病	75~100 倍	育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 0.5 L	移植 3 日前~移植当日	1 回	灌注	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	もみ枯細菌病	75 倍					
稲	いもち病	原液	100 mL/10 a	移植時		ﾍﾟｰｽﾄ肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	3 回以内(直播では種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

１３．登録番号 23204：サイクルヒット箱粒剤、
登録番号 23205：フルターボ箱粒剤
（クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾌﾗﾒﾄﾋﾟﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ	育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日前~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布､無人航空機散布は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	2 回以内(移植時までの処理は 1 回以内)

１４．登録番号 23206：スタウトダントツ顆粒水和剤、
登録番号 23207：ツインターボ顆粒水和剤
（クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ	100 g/10 a	移植時	1 回	ﾍﾟｰｽﾄ肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。	4 回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ	100 倍 高密度には種する場合は 100g/10a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 5~10 g(希釈倍数 50~100 倍))	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当たり 500 mL	移植 3 日前~移植当日	1 回	灌注	4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

１５．登録番号 23458：エバーゴルフォルテ箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数</th><th>ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数</th><th>ﾍﾟﾝﾌﾙﾌｪﾝを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="5">稲
(箱育苗)</td><td>ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｳﾝｶ類
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
いもち病
紋枯病</td><td rowspan="4">育苗箱
(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g</td><td>は種前</td><td rowspan="5">1回</td><td>育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。</td><td rowspan="5">3回以内
(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)</td><td rowspan="5">3回以内
(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)</td><td rowspan="5">1回</td></tr>
<tr><td>白葉枯病</td><td>は種時(覆土前)~移植当日</td><td rowspan="4">育苗箱の上から均一に散布する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">疑似紋枯症(褐色紋枯病菌)
疑似紋枯症(赤色菌核病菌)
内穎褐変病
穂枯れ(ごま葉枯病菌)
もみ枯細菌病</td><td rowspan="2">移植当日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)</td></tr>
<tr><td>白葉枯病
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｳﾝｶ類
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
いもち病
紋枯病</td><td>移植3日前~移植当日</td></tr>
</table>

１６．登録番号 23459：エバーゴルワイド箱粒剤、
登録番号 23627：エバーゴルプラス箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝﾌﾙﾌｪﾝを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 内穎褐変病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	1回
	疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) もみ枯細菌病		移植当日						
	ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ いもち病 紋枯病		は種時(覆土前)~移植当日						
			は種前		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。				
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 内穎褐変病	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植3日前~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。				
	疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) もみ枯細菌病		移植当日						

１７．登録番号 23511：箱王子粒剤
（クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稲	いもち病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ｷﾘｳｼﾞｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ	1 kg/10 a	は種時	1 回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4 回以内(は種時までの処理は 1 回以内､本田での散布､空中散布､無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内(は種時までの処理は 1 回以内､本田での散布は 2 回以内)	3 回以内(は種時までの処理は 1 回以内､本田では 2 回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内､本田での散布､空中散布､無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内､本田での散布は 2 回以内)	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内､本田では 2 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。			
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
	ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日					
		高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	3 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
		高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
		育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。			
		高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						

１８．登録番号 23570：スタウトパディート箱粒剤、
登録番号 23571：ルーチンデュオ箱粒剤、
登録番号 23621：ツインパディート箱粒剤、
登録番号 23622：ルーチンパンチ箱粒剤
（シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ｲﾈｼｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ	1 kg/10 a	移植時	1 回	側条施用	1 回	3 回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内､本田では 2 回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 ｲﾈｼｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾅｺﾞ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ﾋﾒﾄﾋﾞｳﾝｶ 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 ｲﾈｼｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾅｺﾞ類 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ﾋﾒﾄﾋﾞｳﾝｶ	育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	本田では 2 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					

１９．登録番号 23634：ルーチンエキスパート箱粒剤
（イミダクロプリド 2.0%・スピノサド 1.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝﾌﾙﾌｪﾝを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ いもち病 紋枯病 白葉枯病 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布は 2 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	1 回
		高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日前~移植当日						
	もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植当日						

２０．登録番号 23773：スタウトパディートＤＸ箱粒剤
（クロチアニジン 0.80%・シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する			
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50g	は種時(覆土前)					
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り50~100 g)						
	ｲﾅｺﾞ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	移植3日前~移植当日					
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)						

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲	ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	1 回	3回以内（直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内）

２１．登録番号 23890：箱大臣粒剤

（クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾌﾗﾒﾄﾋﾟﾙを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稲	いもち病 紋枯病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｷﾘｳｼﾞｶﾞｶﾞﾝﾎﾞ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g 高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)	移植7日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)

２２．登録番号 24027：ハコナイト粒剤
（クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾁｱﾆｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ﾌｨﾌﾟﾛﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｳﾝｶ類 ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾅｺﾞ類 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ	育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	4回以内(移植時までの処理は1回以内､本田での散布､空中散布､無人航空機散布は合計3回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内､本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)						
		育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する			
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約5L)1箱当り50~100 g)						

２３．登録番号 24029：ルーチンブライト箱粒剤
（シアントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝﾌﾙﾌｪﾝを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 もみ枯細菌病 紋枯病 白葉枯病 内穎褐変病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾅｺﾞ類 ﾋﾒﾄﾋﾞｳﾝｶ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	1 回
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a 育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植 3 日前~移植当日					
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) 疑似紋枯症(褐色菌核病菌) ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植当日					

２４．登録番号 24128：スクラム箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ﾄﾘﾌﾙﾒｿﾞﾋﾟﾘﾑを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝﾌﾙﾌｪﾝを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時覆土前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	1回	3 回以内 (移植時までの処理は1 回以内､本田では2 回以内)	1 回
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1 箱当り 50~100 g)							
	もみ枯細菌病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) ｲﾈﾂﾄﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	移植3日前~移植当日						
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)							

２５．登録番号 24129：防人箱粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数</th><th>ﾄﾘﾌﾙﾒｿﾞﾋﾟﾘﾑを含む農薬の総使用回数</th><th>ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="3">稲
(箱育苗)</td><td rowspan="2">いもち病
もみ枯細菌病
白葉枯病
内穎褐変病
穂枯れ(ごま葉枯病菌)
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ｳﾝｶ類
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
ﾆｶﾒｲﾁｭｳ
ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ
ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ
ｲﾈﾂﾄﾑｼ</td><td>育苗箱30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1 箱当り 50 g</td><td rowspan="2">は種時(覆土前)~移植当日</td><td rowspan="3">1回</td><td rowspan="3">育苗箱の上から均一に散布する</td><td rowspan="4">1回</td><td rowspan="4">1回</td><td rowspan="3">3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)</td></tr>
<tr><td>高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1 箱当り 50~100 g)</td></tr>
<tr><td>苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)</td><td>育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1 箱当り 50 g</td><td>は種時(覆土前)</td></tr>
<tr><td>稲</td><td>いもち病
ｳﾝｶ類
ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ</td><td>1 kg/10 a</td><td>移植時</td><td>側条施用</td><td>3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)</td></tr>
</table>

２６．登録番号 24130：箱維新粒剤、
登録番号 24131：箱将軍粒剤
（クロラントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ﾄﾘﾌﾙﾒｿﾞﾋﾟﾘﾑを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾌﾗﾒﾄﾋﾟﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 白葉枯病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1 箱当り 50 g	移植7日前~移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	1回	1回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	2 回以内(移植時までの処理は 1 回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)							

２７．登録番号 24132：フルスロットル箱粒剤
（シアントラニリプロール 0.75%・トリフルメゾピリム 0.75%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ﾄﾘﾌﾙﾒｿﾞﾋﾟﾘﾑを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝﾌﾙﾌｪﾝを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内､本田では 2 回以内)	1 回
	内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌) ｲﾅｺﾞ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	移植当日						

２８．登録番号 24158：ルーチンコア箱粒剤
（チアクロプリド 1.45%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾁｱｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm､使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					

２９．登録番号 24194：ルーチンシードＦＳ
（イソチアニル 41.7%水和剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲	穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 いもち病	乾燥種もみ 1 kg 当り原液 6~12 mL(原液 71 mL/10 a まで)	は種前	1 回	塗沫処理	3 回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)

３０．登録番号 24319：ヨーバルトップ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾃﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾅｺﾞ類 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~75 g	は種前	1 回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病 もみ枯細菌病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾅｺﾞ類	高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)	は種時(覆土前)~移植当日		苗箱の上から均一に散布する。		
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~75 g	は種時(覆土前)				
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					
	穂枯れ(ごま葉枯病菌) ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~75 g	移植 3 日前~移植当日				
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)					

３１．登録番号 24473：ミネクトブラスター顆粒水和剤
（シアントラニリプロール 15.0%・イソチアニル 40.0%水和剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾅｺﾞ類 もみ枯細菌病 内穎褐変病	200 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	は種時~移植当日	1 回	灌注	1 回	3 回以内（移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内）
	いもち病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	400 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 1 L	は種時				
	いもち病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾅｺﾞ類 もみ枯細菌病 内穎褐変病	高密度には種する場合は 50 g/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 2.5~5 g(希釈倍数 100~200 倍))	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	移植 10 日前~移植当日				

３２．登録番号 24474：ヨーバルパワーＥＶ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾃﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ﾋﾟﾒﾄﾛｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝﾌﾙﾌｪﾝを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ｳﾝｶ類 ｲﾅｺﾞ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	1 回
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)							
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日						

３３．登録番号 24475：ヨーバルプライムＥＶ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・イソチアニル 2.0%・ペンフルフェン 2.0%粒剤）

<table>
<tr><th>作物名</th><th>適用病害虫名</th><th>使用量</th><th>使用時期</th><th>本剤の使用回数</th><th>使用方法</th><th>ﾃﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数</th><th>ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数</th><th>ﾍﾟﾝﾌﾙﾌｪﾝを含む農薬の総使用回数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">稲
(箱育苗)</td><td>いもち病
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ</td><td rowspan="2">育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g</td><td>は種前</td><td rowspan="4">1 回</td><td>育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。</td><td rowspan="4">1 回</td><td rowspan="4">3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)</td><td rowspan="4">1 回</td></tr>
<tr><td>いもち病
ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ
紋枯病
白葉枯病
ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ
ﾆｶﾒｲﾁｭｳ
ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ
ｲﾈﾂﾄﾑｼ
ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ
ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ
ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ
ｲﾅｺﾞ類</td><td rowspan="2">高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)</td><td rowspan="2">は種時(覆土前)~移植当日</td><td rowspan="2">育苗箱の上から均一に散布する。</td></tr>
<tr><td>内穎褐変病
もみ枯細菌病
穂枯れ(ごま葉枯病菌)</td><td>育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g</td><td rowspan="2">移植 3 日前~移植当日</td></tr>
<tr><td></td><td>高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5L)1 箱当り 50~100 g)</td></tr>
</table>

３４．登録番号 24476：ヨーバルＵＧ箱粒剤
（テトラニリプロール 1.5%・ピメトロジン 3.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ﾃﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ﾋﾟﾒﾄﾛｼﾞﾝを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ ｲﾅｺﾞ類 ｳﾝｶ類	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
	内穎褐変病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移植当日					

３５．登録番号 24514：スタウトアレス箱粒剤、
登録番号 24516：稲名人箱粒剤
（オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｵｷｻｿﾞｽﾙﾌｨﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	1回	3回以内(直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾅｺﾞ類 ｲﾈﾋﾒﾊﾓｸﾞﾘﾊﾞｴ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り50~100 g)					
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種前		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50 g	は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り50~100 g)					

３６．登録番号 24597：ミネクトフォルスターＳＣ（シアントラニリプロール 6.5%・イソチアニル 17.4%・ペンフルフェン 17.4%水和剤）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ﾍﾟﾝﾌﾙﾌｪﾝを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ 紋枯病	100 倍	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	移植 10 日前~移植当日	1 回	灌注	1 回	3 回以内（移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内）	1 回
	いもち病 ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭう 紋枯病	高密度には種する場合は、100 mL/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5L)1 箱当り 5~10 mL(希釈倍数 50~100 倍))	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 0.5 L	移植 10 日前~移植当日	1 回	灌注			

３７．登録番号 24615：スタウトアレスモンガレス箱粒剤、
登録番号 24616：稲大将箱粒剤
（オキサゾスルフィル 2.0%・イソチアニル 2.0%・インピルフルキサム 2.0%粒剤）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ｵｷｻｿﾞｽﾙﾌｨﾙを含む農薬の総使用回数	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む農薬の総使用回数	ｲﾝﾋﾟﾙﾌﾙｷｻﾑを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ｳﾝｶ類 ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ ｲﾈﾂﾄﾑｼ ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ ｲﾅｺﾞ類 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 紋枯病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前(覆土前)~移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する	1 回	3 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	1 回
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)						
	苗立枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前(覆土前)					
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)						
稲	いもち病 紋枯病	1 kg/10 a	移植時		側条施用		3 回以内(直播での は種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田では 2 回以内)	

３８．登録番号　－　：レアフロアブル
（イソチアニル 18.3%水和剤）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	ｲｿﾁｱﾆﾙを含む 農薬の総使用 回数
てんさい	褐斑病	400 倍	ペーパー ポット 1 冊当り 1 L(3 L/m^2)	定植 3 日前~定 植当日	1 回	灌注	1 回

別添２：暴露量の推計（イソチアニルを有効成分として含む製剤）

目 次

		頁
１．登録番号22698：スタウトダントツ箱粒剤 （クロチアニジン1.5%・イソチアニル2.0%粒剤）	……	4
２．登録番号22699：スタウトダントツ箱粒剤０８、 登録番号22700：ツインターボ箱粒剤０８ （クロチアニジン0.80%・イソチアニル2.0%粒剤）	……	5
３．登録番号22701：ルーチン粒剤、 登録番号22702：クミアイルーチン粒剤 （イソチアニル3.0%粉剤）	……	6
４．登録番号22703：ルーチンアドマイヤー箱粒剤、 登録番号22704：クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤 （イミダクロプリド2.0%・イソチアニル2.0%粒剤）	……	7
５．登録番号22705：ルーチンアドスピノ箱粒剤 （イミダクロプリド2.0%・スピノサド1.0%・イソチアニル2.0%粒剤）	……	8
６．登録番号22706：ルーチンアドスピノＧＴ箱粒剤、 登録番号23039：シャリオ箱粒剤 （イミダクロプリド2.0%・スピノサド1.0%・イソチアニル2.0%・ チフルザミド3.0%粒剤）	……	9
７．登録番号22707：ルーチンバリアード箱粒剤 （チアクロプリド1.5%・イソチアニル2.0%粒剤）	……	10
８．登録番号22708：ツインターボフェルテラ箱粒剤 （クロチアニジン1.5%・クロラントラニリプロール0.75%・ イソチアニル2.0%粒剤）	……	11
９．登録番号22915：ルーチントレス箱粒剤 （イミダクロプリド2.0%・クロラントラニリプロール0.75%・ イソチアニル2.0%粒剤）	……	12
１０．登録番号23033：箱いり娘粒剤 （クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%・イソチアニル2.0%・ フラメトピル4.0%粒剤）	……	13
１１．登録番号23186：スタウト顆粒水和剤 （イソチアニル40.0%水和剤）	……	14
１２．登録番号23195：ルーチンフロアブル （イソチアニル18.3%水和剤）	……	15
１３．登録番号23204：サイクルヒット箱粒剤、 登録番号23205：フルターボ箱粒剤 （クロチアニジン1.5%・クロラントラニリプロール0.75%・ イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤）	……	16

１４．登録番号23206：スタウトダントツ顆粒水和剤、
登録番号23207：ツインターボ顆粒水和剤 …… 17
（クロチアニジン15.0%・イソチアニル20.0%水和剤）

１５．登録番号23458：エバーゴルフォルテ箱粒剤 …… 18
（イミダクロプリド2.0%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

１６．登録番号23459：エバーゴルワイド箱粒剤、
登録番号23627：エバーゴルプラス箱粒剤 …… 19
（イミダクロプリド2.0%・クロラントラニリプロール0.75%・
イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

１７．登録番号23511：箱王子粒剤 …… 20
（クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%・イソチアニル2.0%粒剤）

１８．登録番号23570：スタウトパディート箱粒剤、
登録番号23571：ルーチンデュオ箱粒剤、
登録番号23621：ツインパディート箱粒剤、 …… 21
登録番号23622：ルーチンパンチ箱粒剤
（シアントラニリプロール0.75%・イソチアニル2.0%粒剤）

１９．登録番号23634：ルーチンエキスパート箱粒剤 …… 22
（イミダクロプリド2.0%・スピノサド1.0%・イソチアニル2.0%・
ペンフルフェン2.0%粒剤）

２０．登録番号23773：スタウトパディートＤＸ箱粒剤 …… 23
（クロチアニジン0.80%・シアントラニリプロール0.75%・
イソチアニル2.0%粒剤）

２１．登録番号23890：箱大臣粒剤 …… 24
（クロチアニジン1.5%・イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤）

２２．登録番号24027：ハコナイト粒剤 …… 25
（クロチアニジン1.5%・フィプロニル1.0%・イソチアニル2.0%粒剤）

２３．登録番号24029：ルーチンブライト箱粒剤 …… 26
（シアントラニリプロール0.75%・イソチアニル2.0%・
ペンフルフェン2.0%粒剤）

２４．登録番号24128：スクラム箱粒剤 …… 27
（クロラントラニリプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・
イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

２５．登録番号24129：防人箱粒剤 …… 28
（クロラントラニリプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・
イソチアニル2.0%粒剤）

２６．登録番号24130：箱維新粒剤、
登録番号24131：箱将軍粒剤 …… 29
（クロラントラニリプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・
イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤）

２７．登録番号24132：フルスロットル箱粒剤 …… 30
（シアントラニリプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・
イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

２８．登録番号24158：ルーチンコア箱粒剤
（チアクロプリド1.45%・イソチアニル2.0%粒剤）…… 31

２９．登録番号24194：ルーチンシードＦＳ
（イソチアニル41.7%水和剤）…… 32

３０．登録番号24319：ヨーバルトップ箱粒剤
（テトラニリプロール1.5%・イソチアニル2.0%粒剤）…… 33

３１．登録番号24473：ミネクトブラスター顆粒水和剤
（シアントラニリプロール15.0%・イソチアニル40.0%水和剤）…… 34

３２．登録番号24474：ヨーバルパワーＥＶ箱粒剤
（テトラニリプロール1.5%・ピメトロジン3.0%・イソチアニル2.0%・
ペンフルフェン2.0%粒剤）…… 35

３３．登録番号24475：ヨーバルプライムＥＶ箱粒剤
（テトラニリプロール1.5%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）…… 36

３４．登録番号24476：ヨーバルＵＧ箱粒剤
（テトラニリプロール1.5%・ピメトロジン3.0%・イソチアニル2.0%粒剤）…… 37

３５．登録番号24514：スタウトアレス箱粒剤、
登録番号24516：稲名人箱粒剤
（オキサゾスルフィル2.0%・イソチアニル2.0%粒剤）…… 38

３６．登録番号24597：ミネクトフォルスターＳＣ
（シアントラニリプロール6.5%・イソチアニル17.4%・
ペンフルフェン17.4%水和剤）…… 39

３７．登録番号24615：スタウトアレスモンガレス箱粒剤、
登録番号24616：稲大将箱粒剤
（オキサゾスルフィル2.0%・イソチアニル2.0%・
インピルフルキサム2.0%粒剤）…… 40

３８．登録番号－：レアフロアブル
（イソチアニル18.3%水和剤）…… 41

＊：製剤のハザード区分に応じた防護装備を踏まえた暴露量を算出した。暴露量の算出に用いないハザード区分に応じた防護装備は備考欄に記載した。

１．登録番号22698：スタウトダントツ箱粒剤（クロチアニジン1.5%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22698
	種類・名称	クロチアニジン・イソチアニル粒剤 (スタウトダントツ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
3	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
4	湛水直播水稲	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する。／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２．登録番号22699：スタウトダントツ箱粒剤０８、登録番号22700：ツインターボ箱粒剤０８（クロチアニジン0.80%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22699
	種類・名称	クロチアニジン・イソチアニル粒剤 (スタウトダントツ箱粒剤０８)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg体重/日)	(μg ai/kg体重)			
1	湛水直播水稲	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する。／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
3	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
4	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３．登録番号22701：ルーチン粒剤、登録番号22702：クミアイルーチン粒剤（イソチアニル3.0%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	22701
	種類・名称	イソチアニル粒剤 (ルーチン粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		3 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.7	1.2	2.8	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.7	1.2	2.8	-	
3	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.7	1.2	2.8	-	
4	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.7	1.2	2.8	-	
5	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.7	1.2	2.8	-	
6	稲	1 kg/10a／収穫30日前まで／湛水散布／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲（手散布）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.6	2.4	2.1	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

４．登録番号22703：ルーチンアドマイヤー箱粒剤、登録番号22704：クミアイルーチンアドマイヤー箱粒剤（イミダクロプリド2.0%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22703
	種類・名称	イミダクロプリド・イソチアニル粒剤 (ルーチンアドマイヤー箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	
3	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	
4	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

５．登録番号22705：ルーチンアドスピノ箱粒剤（イミダクロプリド2.0%・スピノサド1.0%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22705
	種類・名称	イミダクロプリド・スピノサド・イソチアニル粒剤 (ルーチンアドスピノ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 （投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)/は種時(覆土前)～移植当日/移植2日前～移植当日/移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

６．登録番号22706：ルーチンアドスピノＧＴ箱粒剤、登録番号23039：シャリオ箱粒剤（イミダクロプリド2.0%・スピノサド1.0%・イソチアニル2.0%・チフルザミド3.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22706
	種類・名称	イミダクロプリド・スピノサド・イソチアニル・チフルザミド粒剤 (ルーチンアドスピノＧＴ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／移植2日前～移植当日/移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

７．登録番号22707：ルーチンバリアード箱粒剤（チアクロプリド1.5%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22707
	種類・名称	チアクロプリド・イソチアニル粒剤 (ルーチンバリアード箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

８．登録番号22708：ツインターボフェルテラ箱粒剤（クロチアニジン1.5%・クロラントラニリプロール0.75%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22708
	種類・名称	クロチアニジン・クロラントラニリプロール・イソチアニル粒剤 (ツインターボフェルテラ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
3	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
4	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

９．登録番号22915：ルーチントレス箱粒剤（イミダクロプリド2.0%・クロラントラニリプロール0.75%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22915
	種類・名称	イミダクロプリド・クロラントラニリプロール・イソチアニル粒剤 (ルーチントレス箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)/は種時(覆土前)～移植当日/移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１０．登録番号23033：箱いり娘粒剤（クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%・イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23033
	種類・名称	クロチアニジン・スピネトラム・イソチアニル・フラメトピル粒剤 (箱いり娘粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	湛水直播水稲	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する。／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
3	稲　(箱育苗)	50 g/箱／移植7日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１１．登録番号23186：スタウト顆粒水和剤（イソチアニル40.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23186
	種類・名称	イソチアニル水和剤 (スタウト顆粒水和剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		40 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		顆粒水和剤等

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液	200	50
	400	50

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	200 倍, 0.5 L/箱／は種時覆土前～移植当日／灌注／３回	200	液剤_水稲_育苗箱（育苗箱）						12.3	21	47.1	-	調製時、散布時:保護眼鏡
2	稲　(箱育苗)	400 倍, 1 L/箱／は種時覆土前～移植当日／灌注／３回	400	液剤_水稲_育苗箱（育苗箱）						12.3	21	47.1	-	調製時、散布時:保護眼鏡

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１２．登録番号23195：ルーチンフロアブル（イソチアニル18.3%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23195
	種類・名称	イソチアニル水和剤 (ルーチンフロアブル)
② 評価対象有効成分		ベンゾビシクロン
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		18.3 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 液体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		フロアブル剤等

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液	75	50

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	75 倍, 0.5 L/箱／移植3日前～移植当日／灌注／３回	75	液剤_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク１	不浸透性手袋	5.1	8.8	19.7	-	
2	稲	100 mL/10a／移植時／ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									散布時：農薬用マスク、不浸透性防除衣

1)：AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2)：AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１３．登録番号23204：サイクルヒット箱粒剤、登録番号23205：フルターボ箱粒剤（クロチアニジン1.5%・クロラントラニリプロール0.75%・イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23204
	種類・名称	クロチアニジン・クロラントラニリプロール・イソチアニル・フラメトピル粒剤 (サイクルヒット箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／移植3日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１４．登録番号23206：スタウトダントツ顆粒水和剤、登録番号23207：ツインターボ顆粒水和剤（クロチアニジン15.0%・イソチアニル20.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23206
	種類・名称	クロチアニジン・イソチアニル水和剤 (スタウトダントツ顆粒水和剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		20 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		顆粒水和剤等

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液	100	50

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲	100 g/10a／移植時／ペースト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	稲　(箱育苗)	100 倍, 0.5 L/箱／移植3日前～移植当日／灌注／３回	100	液剤_水稲_育苗箱（育苗箱）						12.3	21	47.1	-	

[1)]：AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

[2)]：AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１５．登録番号23458：エバーゴルフォルテ箱粒剤（イミダクロプリド2.0%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23458
	種類・名称	イミダクロプリド・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤 (エバーゴルフォルテ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 （投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１６．登録番号23459：エバーゴルワイド箱粒剤、登録番号23627：エバーゴルプラス箱粒剤（イミダクロプリド2.0%・クロラントラニリプロール0.75%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23459
	種類・名称	イミダクロプリド・クロラントラニリプロール・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤 (エバーゴルワイド箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１７．登録番号23511：箱王子粒剤（クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23511
	種類・名称	クロチアニジン・スピネトラム・イソチアニル粒剤 (箱王子粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	湛水直播水稲	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する。／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
3	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１８．登録番号23570：スタウトパディート箱粒剤、登録番号223571：ルーチンデュオ箱粒剤、登録番号23621：ツインパディート箱粒剤、登録番号23622：ルーチンパンチ箱粒剤（シアントラニリプロール0.75%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23570
	種類・名称	シアントラニリプロール・イソチアニル粒剤 (スタウトパディート箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg体重/日)	(μg ai/kg体重)			
1	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
3	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

１９．登録番号23634：ルーチンエキスパート箱粒剤（イミダクロプリド2.0%・スピノサド1.0%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23634
	種類・名称	イミダクロプリド・スピノサド・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤 (ルーチンエキスパート箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２０．登録番号23773：スタウトパディートＤＸ箱粒剤（クロチアニジン0.80%・シアントラニリプロール0.75%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23773
	種類・名称	クロチアニジン・シアントラニリプロール・イソチアニル粒剤 (スタウトパディートＤＸ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
3	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２１．登録番号23890：箱大臣粒剤（クロチアニジン1.5%・イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23890
	種類・名称	クロチアニジン・イソチアニル・フラメトピル粒剤 (箱大臣粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	湛水直播水稲	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する。／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
3	稲　(箱育苗)	50 g/箱／移植7日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２２．登録番号24027：ハコナイト粒剤（クロチアニジン1.5%・フィプロニル1.0%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24027
	種類・名称	クロチアニジン・フィプロニル・イソチアニル粒剤 (ハコナイト粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時			散布時		反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）	マスク１			マスク１		5.1	8.8	19.7	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）	マスク１			マスク１		5.1	8.8	19.7	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２３．登録番号24029：ルーチンブライト箱粒剤（シアントラニリプロール0.75%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24029
	種類・名称	シアントラニリプロール・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤 (ルーチンブライト箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２４．登録番号24128：スクラム箱粒剤（クロラントラニリプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24128
	種類・名称	クロラントラニリプロール・トリフルメゾピリム・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤 (スクラム箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時覆土前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２５．登録番号24129：防人箱粒剤（クロラントラニリプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24129
	種類・名称	クロラントラニリプロール・トリフルメゾピリム・イソチアニル粒剤 (防人箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
2	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２６．登録番号24130：箱維新粒剤、登録番号24131：箱将軍粒剤（クロラントラニリプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24130
	種類・名称	クロラントラニリプロール・トリフルメゾピリム・イソチアニル・フラメトピル粒剤 (箱維新粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／移植7日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２７．登録番号24132：フルスロットル箱粒剤（シアントラニリプロール0.75%・トリフルメゾピリム0.75%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24132
	種類・名称	シアントラニリプロール・トリフルメゾピリム・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤 (フルスロットル箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２８．登録番号24158：ルーチンコア箱粒剤（チアクロプリド1.45%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24158
	種類・名称	チアクロプリド・イソチアニル粒剤 (ルーチンコア箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／移植3日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

２９．登録番号24194：ルーチンシードＦＳ（イソチアニル41.7%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24194
	種類・名称	イソチアニル水和剤 (ルーチンシードFS)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		41.7 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 液体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		乳剤等

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg体重/日)	(μg ai/kg体重)			
1	稲	1 倍, 乾燥種もみ1kg当り原液6～12ml(原液71ml/10aまで)／は種前／塗沫処理／1回	1	―	マスク１	不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣	マスク１	不浸透性手袋	-	0.88	-	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３０．登録番号24319：ヨーバルトップ箱粒剤（テトラニリプロール1.5%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24319
	種類・名称	テトラニリプロール・イソチアニル粒剤 (ヨーバルトップ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	75 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.7	1.2	2.8	-	
2	稲　(箱育苗)	75 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.7	1.2	2.8	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３１．登録番号24473：ミネクトブラスター顆粒水和剤（シアントラニリプロール15.0%・イソチアニル40.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24473
	種類・名称	シアントラニリプロール・イソチアニル水和剤 (ミネクトブラスター顆粒水和剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		40 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		顆粒水和剤等

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液	200	50
	400	50

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	200 倍, 0.5 L/箱／は種時～移植当日／灌注／３回	200	液剤_水稲_育苗箱（育苗箱）						12.3	21	47.1	-	調製時、散布時:保護眼鏡
2	稲　(箱育苗)	400 倍, 1 L/箱／は種時／灌注／３回	400	液剤_水稲_育苗箱（育苗箱）						12.3	21	47.1	-	調製時、散布時:保護眼鏡

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３２．登録番号24474：ヨーバルパワーＥＶ箱粒剤（テトラニリプロール1.5%・ピメトロジン3.0%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24474
	種類・名称	テトラニリプロール・ピメトロジン・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤 (ヨーバルパワーＥＶ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３３．登録番号24475：ヨーバルプライムＥＶ箱粒剤（テトラニリプロール1.5%・イソチアニル2.0%・ペンフルフェン2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24475
	種類・名称	テトラニリプロール・イソチアニル・ペンフルフェン粒剤 (ヨーバルプライムＥＶ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３４．登録番号24476：ヨーバルＵＧ箱粒剤（テトラニリプロール1.5%・ピメトロジン3.0%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24476
	種類・名称	テトラニリプロール・ピメトロジン・イソチアニル粒剤 (ヨーバルＵＧ箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等 （投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣		不浸透性手袋	0.5	0.8	1.9	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３５．登録番号24514：スタウトアレス箱粒剤、登録番号24516：稲名人箱粒剤（オキサゾスルフィル2.0%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24514
	種類・名称	オキサゾスルフィル・イソチアニル粒剤 (スタウトアレス箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
3	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３６．登録番号24597：ミネクトフォルスターＳＣ（シアントラニリプロール6.5%・イソチアニル17.4%・ペンフルフェン17.4%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24597
	種類・名称	シアントラニリプロール・イソチアニル・ペンフルフェン水和剤 (ミネクトフォルスターＳＣ)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		17.4 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 液体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		フロアブル剤等

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液	100	50

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	100 倍, 0.5 L/箱／移植10日前～移植当日／灌注／３回	100	液剤_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	長ズボン・長袖の作業衣			10.1	17.4	39	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３７．登録番号24615：スタウトアレスモンガレス箱粒剤、登録番号24616：稲大将箱粒剤（オキサゾスルフィル2.0%・イソチアニル2.0%・インピルフルキサム2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24615
	種類・名称	オキサゾスルフィル・イソチアニル・インピルフルキサム粒剤 (スタウトアレスモンガレス箱粒剤)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		2 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 固体
⑥ 調製時の予測式		固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液		

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	稲　(箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／３回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						5.3	9.1	20.3	-	
2	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／－回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

３８．登録番号－：レアフロアブル（イソチアニル18.3%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	-
	種類・名称	イソチアニル水和剤 (レアフロアブル)
② 評価対象有効成分		イソチアニル
③-1 AOEL		0.026 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		設定不要
④ 有効成分濃度・含有率		18.3 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 液体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		フロアブル剤等

【補助１】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助２】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（%）
製剤	1	10
希釈液	400	50

使用番号	⑦作物名	使用方法等（投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数）	希釈倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	（μg ai/kg体重/日）	（μg ai/kg体重）			
1	てんさい	400 倍, 1 L/箱／定植3日前～定植当日／灌注／１回	400	液剤_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク１	不浸透性手袋	1.9	3.3	7.4	-	

1): AOEL占有率＝反復暴露量（μg ai/kg体重/日）÷1000（μg/mg）÷AOEL（mg/kg体重/日）×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量（μg ai/kg体重）÷1000（μg/mg）÷AAOEL（mg/kg体重）×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。